



あつーい夏をのりきろう！

いよいよ夏本番！みな様お元気でおすごしですか？

体表から汗をかけないワンちゃんネコちゃんにとって、夏の暑さはわれわれ以上に酷なものです。実際、この時期夏バテで食欲・元気がなくなり来院されるケースも多いですし、残念ながら毎年何頭かは熱中症で亡くなります。

かわいいペットにあつーい夏を元気にのりきっていただくため、飼い主さんに気をつけていただきたいこととお話します。

飲み水を欠かさない

常に新鮮な水が飲めるように用意しましょう

屋外飼育の場合、風通しのよい日かげを確保する

屋外飼育の場合、風通しがよく、常に日かげとなる場所を作ってあげましょう。コンクリート面は熱を持ちやすいので注意が必要です。

あまりに暑い日は日中だけでも家の中へ入れてあげましょう。

ペットの留守番はクーラーがおすすめ

夏場、日当たりのよい締め切った室内は思いのほか高温になります。高温の室内において、体表から汗をかかないワンちゃんネコちゃんには、扇風機はほとんど効果がありません。

ペットだけの留守番時、涼しい場所を確保できないならやはりエアコンの使用がおすすめです。クールマットなども上手に利用されるとよいでしょう。

散歩は涼しい時間に短めに

日中の散歩はやめましょう。夕方でもワンちゃんの歩く地表近くはかなりの高温になります。お散歩は早朝もしくは遅めの夕刻以降に行きましょう。

お散歩時間も短めとし、途中、休憩や水分の補給などにも気を配ってあげてください。

車中への放置は厳禁です

「すぐだから...」、「日かげだから...」、「少し窓を開けておけば...」、いえいえ夏場、車中への放置は厳禁です。エアコンを切った車内では、驚くほど気温が急上昇し、予想外の事故につながります。

後悔先に立たず...、この時期、どんなに短い時間でもペットを車の中で待たせるのはやめましょう。

ハイリスクのペットは特に要注意！

どのペットも熱中症の危険性はありますが、ハイリスクとなる短頭種のワンちゃん（パグ、シーズー、ブルドックなど）や、呼吸器の持病（軟口蓋過長、気管虚脱等）が



あったり、老齡、肥満、その他体調不良時などは特に注意が必要です。
普段よりペットの体調チェックを行うのが重要なのはもちろんですが、暑さの負担が
加わるこの季節は特に気をつけてあげてください。

以上、夏の過ごし方の注意点をいくつかお話ししました。夏の暑さはワンちゃんネコちゃんにとって想像以上に過酷なものであるということを飼い主さんにご理解いただき
対応していただくことで、みんながあつーい夏を元気にのりきってくれればと思います。

